

大上 充子 選

特選

入学式ぎゅつとつないだ小さな手

福山市立伊勢丘小学校六年 福島 心渚

【評】新一年生の入学式。未知の世界への緊張感が中七の表現でしっかり伝わって来る。大丈夫と言ってあげたくなる。

太陽がプールの子どもながめてる

庄原市立比和中学校一年 深川 結菜

【評】元氣よく泳ぎ廻っている子供達をぎらぎら照っている太陽もよろこんで見守ってくれているようだ。

振り抜いた打球の先には虹がある

広島市立祇園東中学校三年 森山 琥太郎

【評】部活の練習の様子が上手に表わされている。下五の季語がよく効いている。希望のある臨場感のある句。

風鈴や祖母との日々があふれ出す

呉市立川尻中学校三年 西尾 倫

【評】ありし日の穏やかな祖母との生活を、風鈴が過去の思い出を
継いでくれている。しみじみとした句。

虹だって！みんなで指さす掃除中

呉市立呉高等学校三年 平川 莉央

【評】放課後の掃除中、誰かが虹を見つけた。一斉に窓に寄ってし
ばし眺めた。誰もが夢をもつて…これも青春。

入 選

桜まい別れも出会いもやってくる

廿日市市立地御前小学校六年 増田 資生

どこいこう気持ちもあがるころもがえ

坂町立小屋浦小学校四年 谷本 紀花

風鈴が風といっしょにおどってる

坂町立横浜小学校六年 松本咲優香

どんぐりをひろってポケットまんたんに

三次市立作木小学校三年 峠 潤

風船がからっと晴れる空へ旅

廿日市市立佐方小学校五年 松本 彩葉

水しぶき私が光る夏がきた

福山市立伊勢丘小学校五年 山本 結華

まちあわせあの子見つけたぼんおどり

庄原市立東小学校五年 稲島 玲奈

おじいちゃんひまわりめいろ作ってる

海田町立海田小学校五年 石川紗也奈

背中押す希望の道へ春の風

廿日市市立大野中学校三年 日中 春希

梅雨明けの街を映した水たまり

福山市立駅家南中学校三年 佐藤菜々子

校庭にフルート響く春うらら

福山市立駅家南中学校三年 西岡 璃十

春の土スパイクのあとまっすぐに

庄原市立庄原中学校三年 藤光 巧

紫陽花や自由な恋に憧れて

呉市立川尻中学校三年 山田このみ

雲雀笛夢を抱えてペダルこぐ

呉市立川尻中学校三年 平山麗美亜

ポリポリと採れたて胡瓜丸かじり

呉市立仁方中学校三年 上利ちゆき

炎天下ヒット一本夢つなぐ

英数学館中学校三年 桐山 昂大

春風が先輩達を連れてった

県立広島皆実高等学校二年 灰塚 結

あなたとの恋のスピード蝸牛

呉市立呉高等学校二年 宮畑 大生

蒲公英と園児の帽子おそろいだ

呉市立呉高等学校三年 兼藤 杏花

春来る小さな巨人並び行く

県立広島皆実高等学校三年 水国 颯斗

大上 充子 選

特選

蝸や人は死の日を石に彫り

尾道市 前中 吾一

【評】墓石に亡くなった命日を彫りつける。当り前のことをさりげなく詠う実感であり、納得のいく人生訓のようだ。

ほたる飛ぶ闇に言伝て書くやうに

三次市 田中 暁美

【評】やさしいかな文字で一筆書きを綴るように優美に飛ぶ蛍の様子を詠まれている。

父逝きて義手の遺りし敗戦日

福山市 林 すみ

【評】戦争で失くした手を義手で生き抜いて来られたその父が逝き、義手だけが形身となってしまった。敗戦日を思う。

まちぶせと繕ひ上手女郎蜘蛛

福山市 栗本 リカ

【評】蜘蛛が獲物を捕らえる為の生きる知恵を上手に五七五にまとめられている。破れても破れても繕ふ根気の良さ。

星祭平和の文字の多き街

広島市 池田 萩邨

【評】県外からの観光客が決まって言う。広島は年中平和について
の文字が多く目につく。さすが平和都市広島と。

不器用に生きて余生を稲の花

峡どこも青田となりて風の的

浪音や宗箇が塚に梅雨の蝶

父の日に父となる子の父の顔

チクと刺す棘を宥めて青柚挽ぎ

「二重虹」駆け出す子らの指の先

激戦を涙で語る生身魂

この頃の鍬の重さや木の葉髪

徘徊の猫と目が合ふ溽暑かな

兵隊を送りし駅や立葵

広島市 原田 妙子

竹原市 前田美木枝

広島市 星加 鷹彦

福山市 久保 絃子

豊田郡大崎上島町 若山 修二

府中市 背尾 則子

福山市 小林 翠子

呉市 大林 達郎

広島市 熊谷 純

尾道市 小滝 凡人

呉市 筈谷 美保

広島市
川手
和枝

吳市 宮首美代子

広島市 秋好よし江

広島市 大島 文子

広島市 結城はるか

広島市 山崎 華園

広島市 嶋治久美子

廿日市市 辻 惠風

広島市 徳毛 佳美